

分科会開催報告書

報告日 平成28年 12月 31日	報告者 小幡友子																																	
分科会名 浮雲俳句会	開催テーマ 第105回浮雲俳句会例会																																	
開催日時 平成28年 12月 25日(日) 午前 9:30~11:30	開催場所 金沢地区センター小会議室																																	
参加人数 “わ”の会会員 男 12名 女 5名 合計17名 欠席者 0名																																		
<p>実施内容</p> <p>第105回例会の出句は、兼題の①十和田湖②植物(中冬)と当季雑詠の4句。 句会は、大川会員による添削披露及び、鈴田祥代会員による選句の披講の後、北野主宰から天・地・人賞及び特選5句、佳作9句の発表と、夫々の句についての論評があった。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">天賞句</td> <td style="width: 65%;">侘助の香りほのかに躡り口</td> <td style="width: 20%;">祥代</td> </tr> <tr> <td>地賞句</td> <td>十和田湖のほのかに眩し雪華の夜</td> <td>和女</td> </tr> <tr> <td>人賞句</td> <td>行く年や猿から鶏へバトン継ぐ</td> <td>勇平</td> </tr> <tr> <td>特選句</td> <td>芽キャベツの甘味と苦味広がれり</td> <td>三旦</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実千両千年つづく古刹かな</td> <td>重九</td> </tr> <tr> <td></td> <td>甲斐の山朴の落葉のゆらぎ落つ</td> <td>一幸</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鯉二匹冬日へ飛揚船溜り</td> <td>三洋</td> </tr> <tr> <td></td> <td>弘明寺や読経染み入る枯銀杏</td> <td>國眼</td> </tr> </table> <p>主宰の指導</p> <p>兼題の湖沼シリーズは、29年5月にて終了する。29年7月からは船舶シリーズに入る。 1月の兼題「富士五湖」は、個々の湖ではなく、富士五湖全体を詠むこと。</p> <p>会員選高点句</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">8点句</td> <td style="width: 65%;">天仰ぐ「千手」の如き冬木立</td> <td style="width: 20%;">和女</td> </tr> <tr> <td>6点句</td> <td>枯れ切りし葦のあはひの水明り</td> <td>一清</td> </tr> <tr> <td>6点句</td> <td>恙なきわが身をいとふ柚子湯かな</td> <td>あきえ</td> </tr> </table> <p>次回の予定</p> <p>平成29年1月29日(日)午前9時30分~11時30分 能見台地区センター多目的室B 第106回兼題 ①富士五湖 ②晩冬的时候 他に当期雑詠2句 披講 田中十九会員</p>		天賞句	侘助の香りほのかに躡り口	祥代	地賞句	十和田湖のほのかに眩し雪華の夜	和女	人賞句	行く年や猿から鶏へバトン継ぐ	勇平	特選句	芽キャベツの甘味と苦味広がれり	三旦		実千両千年つづく古刹かな	重九		甲斐の山朴の落葉のゆらぎ落つ	一幸		鯉二匹冬日へ飛揚船溜り	三洋		弘明寺や読経染み入る枯銀杏	國眼	8点句	天仰ぐ「千手」の如き冬木立	和女	6点句	枯れ切りし葦のあはひの水明り	一清	6点句	恙なきわが身をいとふ柚子湯かな	あきえ
天賞句	侘助の香りほのかに躡り口	祥代																																
地賞句	十和田湖のほのかに眩し雪華の夜	和女																																
人賞句	行く年や猿から鶏へバトン継ぐ	勇平																																
特選句	芽キャベツの甘味と苦味広がれり	三旦																																
	実千両千年つづく古刹かな	重九																																
	甲斐の山朴の落葉のゆらぎ落つ	一幸																																
	鯉二匹冬日へ飛揚船溜り	三洋																																
	弘明寺や読経染み入る枯銀杏	國眼																																
8点句	天仰ぐ「千手」の如き冬木立	和女																																
6点句	枯れ切りし葦のあはひの水明り	一清																																
6点句	恙なきわが身をいとふ柚子湯かな	あきえ																																